

早稲田社会学会ニュース

第58号

2021年10月28日発行

早稲田社会学会事務局
〒162-8644 東京都新宿区戸山1-24-1
早稲田大学文学部 社会学研究室内
Tel: 03-5286-3742
E-mail: socio-office@list.waseda.jp
URL : <http://www.waseda.jp/assoc-wss/>

今回のニュースの内容

1. 2021年度第73回早稲田社会学会の報告
2. 2021年度第73回早稲田社会学会総会の報告
3. 2021年度研究助成について
4. 入退会者のお知らせ
5. 学会費納入のお願い
6. 事務局よりお願い

1. 2021年度第73回早稲田社会学会の報告

第73回となる今年度の学会大会は、2021年7月3日（土）、コロナ禍のもと、Zoomミーティングを用いてオンラインでの開催となりました。不慣れな運営ではありましたが、幸いに六十余名の参加をいただくことができました。

報告者および報告題目、司会者、討論者は次のとおりです。

一般研究報告

報告者：

武内保（早稲田大学）「集合的記憶論において「記憶力とはなにか」」

松井怜雄（早稲田大学）「組織成員の組織からの逃走困難性という問題——理論仮説とその問題点の提示」

司会：中村雄輝（早稲田大学）

シンポジウム（13:30～17:00）

テーマ：東日本大震災後10年間の被災地、住民と社会学：住まいと生活を中心に

報告者：

野坂真（早稲田大学）「岩手県における津波被災者の復興感とその背景にある生活状況の経年変化——大槌町における10年間の応急仮設住宅・災害公営住宅全入居者への継続調査の結果を中心に——」

内田龍史（関西大学）「宮城県における災害公営住宅供給と被災住民の生活の回復」

川副早央里（東洋大学）「原発事故被災地域における住宅と生活の再建」

討論者：

秋田典子（千葉大学）

祐成保志（東京大学）

司会：石倉義博（早稲田大学）

シンポジウム報告

大会シンポジウムでは、「東日本大震災後10年間の被災地、住民と社会学：住まいと生活を中心に」をテーマに、野坂真氏、内田龍史氏、川副早央里氏をお招きしてご報告いただいた。東日本大震災から10年を経て、人々の関心が薄れるなか、被災住民はどのような住まいの再建、生活の再建を行ったのか、住民や地域が抱える課題はどのようなものだったのかを知ること、また社会学者とそれぞれのフィールドとの関わりについて振り返ることには一定の意義があると考え、このシンポジウムは企画された。

野坂真氏の報告「岩手県における津波被災者の復興感とその背景にある生活状況の経年変化」では、岩手県大槌町の応急仮設住宅および災害公営住宅入居者への質問紙調査をはじめとするフィールドワークをもとに、被災後の住まいの再建のもつ意味を、被災住民当事者の復興感という観点から捉えなおそうという試みであった。災害公営住宅という恒久住宅への移行後も当事者の復興感が低調であることに着目し、住まいは、福祉や生業、安心できる居場所などと並ぶ復興感の規定要因のひとつに過ぎず、諸要因の有機的結合によって生活再建がなされることが示唆された。

内田龍史氏の報告「宮城県における災害公営住宅供給と被災住民の生活の回復」では、被災自治体内に所在する大学の教員として宮城県名取市・岩沼市を中心としたフィールドワーク、また宮城県の災害公営住宅の質問紙調査にもとづく報告がなされた。生活の回復という観点から、復興の各段階の移行時の共同性の分断、また、災害公営住宅においては、異なる地域からの入居者が混在すること、また、災害公営住宅空き住戸の一般公営住宅化により「被災者」コミュニティとしての意味が希薄化することといった、共同性の維持や再構築が抱える困難さが示された。

川副早央里氏の報告「原発事故被災地域における住宅と生活の再建」では、福島第一原子力発電所事故による避難者の生活再建、また住まいの再建の過程と、その時々々の避難者の判断や抱える問題に関する報告がなされた。とりわけ、避難指示が解除された地域の住民の場合、避難元と避難先のどちらで、どのような住まいでの生活再建を果たすのかを選択することになり、その選択の困難さ、複雑さが住民間の物理的分断、精神的分断を生んでいることが明らかにされた。

これら三名の報告に対して、討論者の秋田典子氏、祐成保志氏からコメントと質問がなされ、報告者が応答することで、それぞれの報告の論点が深められた。いずれの報告者も、住まいの再建がゴールではなく、その後も人々の生活は続いていくという視点を共有しており、今後も関心を維持しつつ、フィールドに関わっていくことが表明された。

（早稲田大学：石倉義博）

2. 2021年度第73回早稲田社会学会総会の報告

2020年7月3日（土）大会終了後に引き続き、インターネットのZoomアプリ上において2021年度早稲田社会学会総会が開催されました。

1. 議長選出 熊本博之（明星大学）が選出されました。

2. 議事

2-1. 報告事項

- 1) 活動報告（2020年7月～2021年7月）（岡本庶務担当理事）
- 2) 2021年度研究助成の申請について（岡本庶務担当理事）

2-2. 審議事項

- 1) 2020年度決算の件（嶋崎会計担当理事）
※添付の決算報告をご参照ください。
- 2) 会計監査報告の件（榎本監事）
- 3) 2021年度予算の件（嶋崎会計担当理事）
※添付の予算報告をご参照ください。

3. 2021年度研究助成について

2021年度の申請について申し込みはありませんでした。

なお、研究助成の趣旨に賛同される方からのご寄付も募っております。寄付については事務局にお問い合わせ下さい。

4. 入退会者のお知らせ

理事会において以下3名の入会が承認されました。（以下、敬称略）

- 2021年5月22日理事会 武内 保（早稲田大学大学院文学研究科社会学コース）
2021年7月3日理事会 小原明恵（東京大学大学院 教育学研究科）
2021年7月3日理事会 西城戸誠（早稲田大学文学学術院）

以上

理事会において以下の7名の退会が承認されました。（以下、敬称略）

- 2021年5月22日理事会 岡部耕典（早稲田大学文学学術院）
2021年5月22日理事会 柳原良江（東京電機大学）
2021年5月22日理事会 麦倉 哲（岩手大学）
2021年5月22日理事会 吉瀬雄一（関東学院大学）
2021年5月22日理事会 永井美紀子（國學院大學・立教大学）
2021年5月22日理事会 大脇亜衣理（名古屋商科大学商学部マーケティング学科）
2021年5月22日理事会 岸 保行（早稲田大学アジア太平洋研究科）

以上

5. 学会費納入のお願い（未納の方へ）

今年度の学会費をまだお振り込みいただけていない方は、お振り込みくださいますようお願い申し上げます。

年会費：一般会員 5,000円 学生会員 3,000円

口座番号：00100-3-38020（郵便振替）

加入者名：早稲田社会学会

複数年度分の会費を納入される場合、および転居・異動などがあった場合には、別途メールにてその旨をお知らせください。なお、年会費の納入記録についてのお問い合わせなどがありましたら、事務局（socio-office@list.waseda.jp）までご連絡ください。

6. 事務局よりお願い

■事務局への連絡はできるだけメールでお願いいたします。

今般の状況下、事務局は通常通りの運営が困難となり、実務の多くをオンラインで行っております。学会事務局へのご連絡等は、できるだけ郵便でなくメールにてお願いいたします。郵便の場合、対応が大変遅れる可能性があります。いろいろとご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

■学会費の納入にご理解とご協力をお願いいたします。

近年、学会費納入率が低下しており、学会運営に支障をきたしております。会員の皆様には、引き続き、早稲田社会学会活動にご理解いただき、会費を納入いただけますようお願いいたします。

以上